

タロット講座

カードを読む前に知っておいて欲しい事

まずは、タロットカードの意味などを説明する前に、頭に入れておいて欲しい事を解説します。

占いやカードが持っている一般的・基本的な意味の元となるモチーフやイメージを解説しますので、この後でカードの意味を受け取るための基本としてください。

「占い」というもの

「占い」には大別して、三種類あります。

- ・命（めい）—命術の事で、生年月日を用いて占う方法。占星術など。
- ・ト（ぼく）—ト術の事で、偶然に表れた象徴を用いて占う方法。タロット、易など。
- ・相（そう）—相術の事で、対象の姿形から占う方法。手相、人相など。

タロットは、その時に偶然出たカードの意味を読み取り、占いとする方法です。

たまたま出たカード。でも、それを読み繋いでいくと過去・現在・未来の流れが見えてきます。

しかし、占いにおいての未来は確定事項ではありません。

あくまでも、今のまま、或いは特定の条件で進んだ場合の可能性です。

結果が良くても油断をすればダメになるかもしれませんし、悪い結果が出ても避けられる道・軽減させる方法があるかもしれません。

占いは予言ではないので「あなたはこの運命から逃れられない」なんて事はないのです。

少しでもより良い未来を引き寄せるためのものと考えてください。

タロットの成り立ち

タロットの語源は不明ですが、アルカナには隠されたもの・秘密・神秘、といった意味があります。

歴史については諸説あり、古代エジプト起源説やジプシー起源説などありますが、ヨーロッパのあちこちで何百年にも渡って様々な種類のカードが、占いや賭け事に使われていく中で変化したようです。

大別して



「マルセイユ版」



「ウェイト・ライダー版」

の二種類があります。

マルセイユ版はフランスのマルセイユで成立したもので、小アルカナにイラストが無かったり、読み方な

ども違うので、わかりにくい印象です。

大アルカナの「8・力」「11・正義」というカードの順番が逆になっています。

そして「ウェイト・ライダー版」はイギリスの「^{ゴールデン・ドーン}黄金の夜明け団」という宗教的な組織に所属していたアーサー・エドワード・ウェイトという人物がデザインし、パメラ・コールマン・スミスに描かせたカードが1909年にロンドンのライダー社から発売されたので、ウェイト版ともライダー版とも呼ばれますが、どれも同じ物です。

絵柄がわかりやすく解釈しやすいので、タロットカードを解説する本も大体はこのカードを使って説明しています。このカードがタロットの基礎となります。

まずはこのカードで練習し、お気に入りの絵柄などを見つけていきましょう。

ネットや大きな本屋、雑貨屋などで探せます。

他にも様々な絵柄があり、実際に使うのは相性がありますので、上手く読めない、と感じる事もあります。絵柄が気に入っているなら身近に置いておいて構いません。

そのカード専門の勉強が必要になるものもあります。

大アルカナと小アルカナ

タロットカードは大アルカナ22枚。小アルカナ56枚の計78枚から構成されます。

大アルカナは、運命的な物事や哲学的な世界観のカードです。

この22枚だけでも占いは出来ます。慣れないうちは、この大アルカナだけで占ってみても大丈夫です。

ただし、内容がざっくりしたものになってしまいます。

それを補うのが小アルカナ。

小アルカナはトランプの元になったとも言われ、4つのスート×14枚のカードで構成されます。

世俗的で細かい内容が出るので、合わせて使う事でより詳しい鑑定結果を導き出す事が出来ます。

スート	象 徴	力（四大元素）	意 味
ワンド	こん棒	火の力	意志、目的、情熱
カップ	聖杯	水の力	感情、感覚、愛情
ソード	剣	風の力	知性、対人関係、情報
ペンタクル	コイン	地の力	物質、現実、実践

この一覧は、小アルカナに限らず共通したイメージなのでなんとなくでも頭に入れておいてください。

様々な象徴や意味

タロットの絵柄の中には、色々な意味が込められています。

全てを暗記する必要はありませんが、いくつかは頭の片隅に置いておいてください。

月

西欧と日本ではイメージが違います。

「ルナティック」という言葉があるように人を狂気に落とすもの、というイメージが強いです。

月を見つめていると気が狂う、と言われて強い不安や迷いをもたらすイメージです。

カデュケウス（カデュケス）の杖

タロットの中に時々描かれている杖は、これがモチーフです。

ギリシャ神話のヘルメス神が持っている杖で、ケーリュケイオンとも言います。

伝令神であり商業の守護者でもある彼の持ち物として、死者を蘇らせるほどの力を持つとされています。

二匹のヘビと翼が付いているデザインで、医療の神の持ち物と混同されますが違います。



色について

- ・赤：エネルギー、情熱、怒り、危険、生命力
- ・青：精神性、清らかさ、死、名誉、幸運、寂しさ
- ・黄：自己顕示欲、嫉妬、独創性、偽り、直感
- ・白：純粹、無垢、幸運、孤独、死、自由、意識
- ・黒：困難、死、絶望、秘密、悲しみ、孤独、無意識
- ・緑：健康、自然、信仰、生命、救済、安定
- ・紫：靈感、神秘、気高さ、混乱、幻想、魅力
- ・灰：曖昧、無関心、退屈、不安、憂鬱、孤独
- ・金：理想、野心、見栄、富、才能、価値、男性性
- ・銀：愛情、霊性、感受性、直感、女性性
- ・茶：暖かさ、豊かさ、大地、現実
- ・ピンク：恋、モラトリアム（大人への猶予）、幼稚、幸運の中の不安
- ・オレンジ：創造性、希望、進展、増進

星座について

特質と対応星座

- ・牡羊：主張（火星） ・牡牛：所有（金星） ・双子：思考（水星） ・蟹：感応（月）
- ・獅子：意志（太陽） ・乙女：分析（水星） ・天秤：比較（金星）
- ・さそり：欲望（冥王星） ・射手：理解（木星） ・山羊：使役（土星）
- ・水瓶：認識（天王星） ・魚：信仰（海王星）

大アルカナとの対応（星座の人物、時期）

<星座>

- ・牡羊：皇帝 ・牡牛：法皇 ・双子：恋人 ・蟹：戦車 ・獅子：力 ・乙女：隠者
- ・天秤：正義 ・さそり：死神 ・射手：節制 ・山羊：悪魔 ・水瓶：星 ・魚：月

四大元素

これは古代ギリシャからの考えで、この世の物質は四つの元素から構成されている、というもの。

火・水・風・土 の四つで、小アルカナの一覧がこれに当てはまります。

直接的な物、というよりはこの世界はそういった性質の物が交じり合って構成されている。

そんなイメージです。

日本人としても理解しやすいイメージだと思います。

ファンタジーでも、よく出てきますね。

サラマンダーは火。

ウンディーネは水。

シルフィードは風。

ノームは土。



この四つを支配する事は、世界を支配するに等しいです。

サラマンダーは日本語で火トカゲともよばれ、ワンドのキングの足元や男性陣の衣装にいます。

また、ドラゴンやヘビが輪っかになっているウロボロスという完成や永遠の象徴もあります。

右と左

右は未来、プラス。左は過去、マイナス。スピリチュアルの世界では左を重要視して左手を率先して使ったりします。タロットにおいては、登場人物にとっての左右だったり、占い師から見た左右だったりしますので、そこは柔軟に受け止めてください。

ローマ数字

大アルカナを見分けるのに使えます。

I	II	III	V	X
1	2	3	5	10

※この組み合わせで表します
(桁の大きい物は割愛します)

元に無い数字は大きな数字 V 5、X 10 を中心に足すか引くかして表します

IV VI VII

5-1=4 5+1=6 5+2=7

向かって左にある数字はマイナスする
向かって右にある数字はプラスとする

※タロット占いでは左をマイナス、
右をプラスとしますので、
そのように覚えましょう

コートカードについて

小アルカナは1-10までの数字とページ、ナイト、クイーン、キングの人物を表すカードから構成されています。

1-10までは、人の一生（市井の人々）になぞらえます。

その後のページからキングまではコートカードと呼ばれる括りになります。

COURTとは宮廷の事で、そこで暮らす人々のカードです。

カードの舞台は、街中からお城の中へと移ります。

コートカードは人物カードとも呼ばれ、基本的にはそのカードが表す人間像として読み、当てはまる人物がない場合は状況として読みます。

1~10までのカードが庶民の生活なら、ここからはやんごとなき人々の世界。

向かって左から、ページ、ナイト、クイーン、キング、です。



それぞれ、スートの特性×少年・青年・女性・男性として性格付けがされています。

正位置であれば、それが良い性格として出ていて、逆位置だと、悪い性格と出ているイメージ。

でも、正位置であっても何か引っかかる時は、正位置の性格が行き過ぎた人、と読むのもアリです。

いい人で悪気がないけど真面目過ぎるのも問題だね、といった感じで、本来は良いはずの性格もやり過ぎ・行き過ぎは困る、と読む場合もあります。

まずは、「ページ」のカードから紹介します。

この中で皆さんが一番ピンとこないのは、「ページ」なのではないでしょうか？

ページとは、宮廷につかえる小姓の事です。

小姓とは、宮廷や貴族のお屋敷の中で雑用に関わる少年です。

通常、7～8 歳くらいから主君のところか、生家よりも格上の家で雑用を始めます。

内線などない時代。

広いお城の中で届け物をしたり誰かを呼びに行ったり伝言を届けたり、などの使い走りを中心に雑用をします。この使い走りのお仕事から、メッセンジャーの意味でも読みます。

雑用係、といってもお城で身分高い方々に仕えるのですから、上流のお家に生まれた子供たちです。

十代半ばくらいで騎士としての修行を始め、やがては「騎士-ナイト-」になります。

日本では時代劇で殿様の後ろで刀を持っていたりする少年が小姓です。

良くも悪くも、少年性のカード。

良い意味で出れば少年の心を持った魅力的な人物だけど、悪い意味で出れば、ただの子供っぽい人。

特に逆位置で出た時には、その人の性格や行動は子供っぽいせい、という事になります。

いい大人なのにコレが出てしまうと、困ったものです。

次は「ナイト」のカードを紹介します。

ナイトとは、騎士。

宮廷を舞台にした物語の中では主役として活躍する華やかな存在です。

主君に仕えて戦で活躍したり、冒険の旅に出たり、姫君たちと恋をしたり。

ページだった男の子が修行して剣を覚え、女性への対応も身に付けていきます。

甲冑やマントに身を包み、馬に乗った姿は乙女たちの心をつかんだことでしょう。

有名なアーサー王伝説の騎士たちは、聖杯を求めて旅に出たり、あちこちの姫、あるいは王妃と浮名を流して忙しいです。

そう。人妻にもわりと平気で手を出してます。

まあ、レディーに仕えるのも騎士の役割なので迫られると断りにくい、という事情もあるようです。

麗しの姫君に何かあったり、彼女たちの名誉を汚すような者が現れた時は命を懸けて戦ったりします。

肉体的にはか弱い姫君たちも、思惑は色々あるので入り乱れて大変な事になったりしています。

中世騎士の恋物語など、お子様には見せられない展開が満載。

カッコいいとモテていいよね、とも言ってもらえない危機や気苦労があります。

興味がおありの方は、本を探して読んでみてくださいね。

とにかく若い男性のカードですので、時によって、優しい恋人だったり、熱い男だったり、真面目で奥手だったり。

それが悪い方に出ると浮気っぽかったり、ジコチューだったり。優柔不断だったり。

恋のお相手としては困った人、となります。

そして「クイーン」のカードを紹介します。

王様の妃として、城の女性の中ではナンバーワンの地位です。
女主人として諸々に采配を振るい、王を助ける立場。

そして、王に仕える騎士たちからの尊敬を受ける存在でもあります。

文字通り、女王様です。

女性としての光と影を象徴したような方々です。

良い方に出れば、頼もしい姐さんだったり、優しいマドンナだったり、みんなのお母さんだったり。

でも、それが反転して悪い面が出てしまうと、意地悪なお局様だったりメンヘラで面倒なタイプだったり、だらしない、といった感じの人物になってしまいます。

「女」のプラス面とマイナス面が典型的に出ます。

現代の価値観ではステレオタイプに人を見る事に抵抗があるかもしれませんが、あくまでも人物像のイメージなので、そのまま受け止めてください。

占っていると、本当に会社のお局様や家庭の義母のことなんか、ハッキリと出ます。

最後は、「キング」のカードを紹介します。

文字通り、城の主・国の主です。

人々を率いていく存在。

それは、家庭や職場であっても同じです。

そして、色々な経験を経てキングの地位に就いているのですから、苦勞も知っています。
人の上に立つ人物は、ちやほやされているだけではダメなのです。

「貴種流離譚（きしゅりゅうりたん）」という言葉があります。

元は高貴な生まれであった人物が訳あってその地位を追われ、或いは子供の頃に捨てられて、一般市民として育つもやがては苦勞を乗り越えて王になる、というパターンの物語です。

「ライオンキング」なんかがそのパターンですね。

そういった伝説に彩られている王は世界中にいます。

家臣の子として育ったアーサー王。

河に流されたモーセやサルゴン王。

「王」という地位でなくても、英雄として語られる人物には苦勞話は付き物です。

友を失い、不死を得ることもかなわなかったギルガメシュ王。
父に認められずに戦いにばかり駆り出されるヤマトタケルノミコト。
国元からの応援が得られず、ローマを滅ぼし損ねたハンニバル將軍。

高貴な生まれの人物がその地位から落とされる、報われぬ苦勞をする、というのはやはり人々の心を掴む物語ではありますし、王として上に立つ人物であるなら、世の中の苦勞も知っておいて欲しいと考えるから人気なのでしょう。

物語の主人公たるべき王は様々な試練を経て、最終回で冒険を終えるものです。
そして、あとは善き王として国を治めました、で終わる。

悲劇で終わる人物もいるのですが、まあ、そこは今回は置いておいて。

そんな王に、人々はついていく。

「忠誠」という言葉はいまや一般的には使いませんが、昔の王はその忠誠を捧げるべき存在。
そして、王はその忠誠を受けるにふさわしい人物であることが求められます。
同じような意味でも、ナイトのカードとは経験値や重みが違います。

「王」という地位に甘んじていては他の人物からの忠誠は得られません。

それは、家庭や会社でも同じですよ？
恋人・夫・父親・先輩・上司・社長。

どの立場であれ、誰かの信頼が欲しいなら、それにふさわしい人物になるしかないので。

「俺様が主だぞ」でも
「そんな事俺に言われても知らないよ」でもダメですよ。

頼りになる人物か？
ダメなオヤジか？

コートカードは、大抵は人物像を表すものとして出て来ます。
「どんな人か？」
「どんな状況か？」

を読む時にこのような事も参考にしてみてください。